ある。最後に度量衡が凡て米突法に統一せられてあるのは、時節柄至極結構であるが、鑛山などで實地說明を聽く時や、從來の報告書等には多く慣用の單位で記載してあるから、米突法に整一する迄、過渡時代と見做し當分の間米突法の數量の下に括弧を附し、從來慣用の單位に依る數量を記入して置ては如何のものにや、併し是も曆の場合と同樣で、舊單位の數量を一切記入せぬ方が米突法の實施を促進する譯だから、其は斷然爲さぬ方針だと云はるれば一言もない。（水石生）

○太田吉岡村誌　岡山縣赤磐郡太田吉岡兩村誌　岡山縣赤磐郡千種尋常高等小學校編輯

岡山縣赤磐郡太田吉岡兩村は古は藤野郡沙石郷といひ備前で最も古い刀鍛冶のゐた場所で、今は山陽線萬富驛のある處である。本編は同村の荒木誠一氏が拮据三年餘を費して編纂せる所に係り、菊版四〇六頁、色刷地圖一葉珂羅版廿一葉、總論の第一沿革の部は古墳、條里、窯跡、吉岡劔工、城址、戰跡の諸章を分ち、降つて第二現代に入り地理政治產業交通經濟兵事教育宗教及社寺團體等の章を分ち更に大字誌に各大字の沿革社寺墳墓人物文書等の諸節を逐ひて詳述してゐる。備前燒の陶器と備前刀とは有名な地方工業で吉岡附近にはその最も古い遺跡を存し、奈良東大寺の瓦を燒いた窯跡や刀鍛冶の鑛滓が發見せられた報告があり、且つ多數の古墳の調査書もあり、名は村誌であるが備前の石器時代から現今までの文化の發達變遷の縮圖を此處に見るのは頗る面白い。荒木氏が篤學の人で永山卯三郎氏の指導の下に此の如く村誌として模範的の大作を完成されたのは大に推奬せねばならぬ。自分は備前鍛冶で最も古いものを爲則と考へたが、此の書を讀んで初めてその住所が或は沙石郷ならんとの暗示を得たので贈銘を精讀して備前國沙石住俘囚臣爲則と刻んだのを發見したのは愉快であつた。氏は長船鍛冶は此處から移住したと考へられたが、惜むらくは福岡長船畠田吉井の諸邑に本誌に匹敵する調査がないので未だその源委分派の詳細を知ることが出來ぬ。挿圖寫眞裝釘印刷共に鮮明美麗で內容の豐富なるに讓らぬのは地方誌中の出色の點である。發行所は千種高等小學校組合で實費約五圓で殘本を希望者に頒つといふ。（T O）

質疑應答

問　現今世界に於ける小麥の主要なる生產地と其消費地とを知りたし。

答　小麥は世界的の穀物で東西兩半球で暖帶及亞熱帶に渡つて一般に耕作せられるが、この植物は夏期の高溫と、多雨でなくとも適度の降雨量があるのを好み肥沃の土壤をすく、從つて以上の地帶の中で低平なる沖積平野に尤も多く耕作せられ、南露の黑土帶。墺匈地方ダニューブ流域及南アメリカの潛せてゐないステップの地域の如きは其主な產地である、更に之を細說すれば舊大陸での小麥耕地は大西洋岸より太平洋岸に連り暖帶の地域をしめ歐洲で佛國から地中海岸の諸國、匈牙利、南ろしや等が主產地で獨逸の如きは南西部に限りて出來る、亞細亞では

小亞細亞、北印度、北支那、日本、滿洲から南部シベリア、中央アジアの砂漠地の南側に分布し、黑海の北と西に於て人口稀薄な廣大農場がある、ウクライナ人アルガリア人及ルーマニア人は就中小麥の優等な栽培民族でこの三國こそ歐洲穀倉の稱をうくる本場である、佛國のごとき小麥の生産額の上からは歐洲第二位の高度に居るけれども國内消費を充たす丈けで猶若干の輸入を仰ぐ狀態である。

新大陸では合衆國の北部と加奈陀の南部に小麥帶と稱すべき地域がある、大湖地方とロッキーとの中間の平野がそれで合衆國北部のプレリー地方からカナダのウキニペッグ地方へかけて廣大無邊の小麥畑がある、この兩國の中で加奈陀は殊に人口が稀薄であるから、其産出はすべて輸出に供せられて世界への穀倉となつてゐる、合衆國では大湖地方の南カンサスから太西洋岸へかけて猶一帶の小麥耕作區域がある、南半球では南東濠洲及阿弗利加の南回歸線以南及南米に小麥の耕作地がある、濠洲では全耕地の八十六%を小麥に供する故其産出物は羊毛及金と共に第一位の輸出品であり、南米では特にアルゼンチンのパンパの平野の産出を推さればならぬ蓋し南米ラプラタ河口の西及パラグエー南部は玉蜀黍の主産地であるが、この玉蜀黍の耕地をめぐつて小麥の環狀耕地帶がある。

かやうに小麥は全世界の耕作物であるから穀類耕作面積の四分一以上はすべて小麥の爲めに用ひられ、其産出額も裸麥に三倍し年額約一億噸と稱せられる、かやうに小麥の耕地が廣い故に世界の各國民は、いづれも小麥の消費者であるが、從前課麥を常食とした國民も近來は小麥の麵包を食ふので需要も增加し來り、最近四十年間に世界の小麥の産額は二倍するやうになつた、そこで世界的に小麥を輸出する國は何所かといへば、戰前には米國、露國、加奈陀、アルゼンチン、ルーマニア、墺地利、英領印度の國々であつたのであるが、戰爭中に佛國、伊太利、ルーマニアの如き國の平野が荒されたために、耕地面積が減少し戰後の恢復出來ないのと同時に、戰爭中軍需品としての需要が勃興したために、米國、加奈陀の外にアルゼンチン、オウストラリア等の産出國が著しく擡頭して來たのであつた、さてこれらの諸國の産出を消費する國は歐洲に於ける主要なる工業國で、就中英國を其宗とし獨逸之につぎ、白耳義、佛國、伊太利等之につぐの狀である、左に戰前五ヶ年間の平均の各國別輸出表と輸入表とを擧げるからこれによつて問題に對する答を讀者自から作くつて頂きたい。

輸出國		輸入國	
ロシア	四、四六七、三〇〇噸	英國	五、八八一、六〇〇噸
アルゼンチン	二、二五四、〇〇〇	獨逸	一、八五九、九〇〇
合衆國	二、九一〇、三〇〇	白耳義	一、三四四、一〇〇
ルーマニア	一、四六二、一〇〇	佛國	一、一八七、七〇〇
カナダ	二、五八〇、五〇〇	伊太利	一、四四八、三〇〇
濠洲	一、四五三、一〇〇	和蘭	五九八、一〇〇
英領印度	一、三四九、七〇〇	丁抹	一、六六、六〇〇
ブルガリア	二八七、三〇〇	瑞士	四一〇、六〇〇
アルゼリア	一四六、六〇〇	墺匈國	二八七、〇〇〇

地球			
チユニス	二〇、三〇〇	那威	九六、四〇〇
チリ	五三、四〇〇	西班牙	一六八、六〇〇
ニウジーランド	一八、二〇〇	瑞典	一九一、七〇〇
合計	一六、九六三、二〇〇	埃及	二二五、六〇〇
		日本	一二〇、六〇〇
		合計	一三、九六六、八〇〇

序に最近の米國農務省の調査によれば一九二三年中全歐洲の輸入せる數量は小麥五億三千百六十一萬八千アツセルで歐洲以外の各國の小麥輸入額は僅に一億五千萬アツセルに過ぎないといふ事であるから、消費國は前掲の諸國であること今も變化がない、しかして是等各國への供給國は露國を除いて左の如く凡六七萬億アツセルの輸出力がある、(一九二四年度の見込數)(單位千アツセル)

米國	二二五、〇〇〇乃至二〇〇、〇〇〇	
加奈陀	一九〇、〇〇〇乃至一七〇、〇〇〇	
アルゼンチン	一五〇、〇〇〇乃至一三〇、〇〇〇	
濠洲	八五、〇〇〇乃至七五、〇〇〇	
英領印度	三五、〇〇〇乃至二五、〇〇〇	
其他	二〇、〇〇〇乃至一〇、〇〇〇	
合計	七〇五、〇〇〇乃至六一〇、〇〇〇	

(藤田)

問　登山に關する注意事項　(兵庫、播磨生)

答　森林に蔽はるゝ山、岩石露出崩石多き山、雪溪氷河のある山、火山等山嶽の種類によつて注意事項を異にし、登山の目的によつて携帶品を異にする。今、一般登山者が日本アルプス程度の山に登るとしての概略の注意を記し、あとは參考書に讓る。

一、服裝＝詰襟洋服、莫大小襯衣、毛織腹卷、莫大小ズボン下(凡て毛織物がよし)、脚袢(卷ゲートルは宜しくない)鳥打帽子、防寒具は冬の外套又は冬シャツ、雨具は防水外套、笠　御蘆等、履物は草鞋、足袋。

二、食料＝日本アルプスならば普通のものは山中の小屋に賣つてある。副食物として腐敗の恐なき嗜好品を携帶せばよい。糖分・茶・鰯・鰹節等は旅情を慰む。

三、携帶品＝地圖(五萬分一地形圖)、金剛杖(嵩付は便利)、油紙、金糸を綱(山によつては不要)、リュックサック、磁石、時計、小刀、蠟燭、マッチ(煙草を吸はぬ人でも必要あること多し)、繃帶、水呑器、手帳、鉛筆其他小品及仁丹、胃藥類。

四、行動其他＝山中の行動については經驗ある案内者の指揮を待つが最も安全、決して無謀の擧に出でてはならぬ。偃松帶・熊笹・大密林に入る場合は登山道を誤らぬ樣に留意し、若し道を失ひしとき、濃霧に遭遇、又は豫定地に到達せざるに夜となる等の場合はなるべく山中を彷徨してはならぬ。暴風雨・雷鳴・地震・噴火其他の禍に遭遇せる場合に最も注意を要するは周章狼狽せぬ事である。豪雨のため全身濡れる事あるとも腹部・マッチ等は濡らさぬ樣油紙で腹卷をする事は肝要である。日本アルプス登山者は信濃山岳會(松本市仲町)に紹介するがよい。案内者、各山嶽登山についての特殊の準備其他の心得を與へてくれる。

五、參考書＝日本アルプス縱斷記、白馬嶽登山案內等の附錄に「登山者の心得」が載せてある。英文では

Abraham, G. D. The complete mountaineer.
London. 1907
Conway, W. M. Mountaineering.
Encyclopaedia Britanica. Vol. XVIII. pp. 937－938.（多くの參考書を掲げてあるから都合がよい）

問　**ゴンドワナランドにつき御敎示を願ひます。**（靜岡、瀧澤生）

答　古生代に於ては現今の地中海の前身なるテチス海と稱する大地中海があつて、南歐及北アフリカより中央亞細亞・印度北部を過ぎて太平洋に續き地球を南北の兩大陸に分けてゐた。南の大陸は今の濠洲・阿弗利加・南亞米利加を含む大陸であつた。中生代の初め頃（三疊紀・侏羅紀）テチス海は印度の西北からマダガスカル島の西に及ぶものと、印度支那から濠洲の西に及ぶものとの二大支灣を生じて南方の大陸を三分した。最西の大陸はアフリカ・南大西洋・南米に渡る所謂エシオピヤブラジル大陸、最東の陸地は濠洲の小大陸、中央の陸地は卽ちゴンドワナ大陸と稱するものである。この大陸は印度の南部・印度洋の一部マダガスカル島を連ねるものであつた。白亞紀の大海浸（セノマニアントランスグレスション）のためテチス海は更に其區域を廣め今の大西洋の生成もこの頃であつた。かくてゴンドワナ大陸は面積を縮少した。第三紀に入りて陸地の隆起のためテチス海は著しく縮少し、ゴンドワナ大陸の一部もアフリカと接續したこともあつたかと言はれてゐるが、印度洋の完成と共にこの大陸の大部を失つて現今では僅に印度南半とマダガスカル島の東部に其の跡を止めるに至つたのであるといふ。

Kossmat, F. Paliogeographie. Sammlung Göschen. 1916.
Kayser, E. Abriss der allgemeinen und stratigraphischen Geologie. 1922

問　**地形の良く分かる外國地圖**

答　參考用としては Philips' Senior School Atlas が手頃であり敎授用としては最近東京麴町區飯田町小林又七より、小川博士の外國地理敎授用掛圖が出てゐます。本誌第三卷第三號の廣告を見て下さい。

猶 Goode's Wall Maps of the world が出てゐますが本誌第一卷第一號本欄を參照されたい。（上治）

編輯便り

當今幾つかの地學に關する雜誌が發刊されつゝあるのは日本の地學界に執つて空前の出來事で誠に喜ばしいことである。我が「地球」誌も此等優秀な月刊雜誌に伍して行かれることは一に愛讀者の庇護によるのである。地學愛好者の負擔に叛かないといふ表現の一つとして、月刊雜誌の經營としては苦痛であるべき圖版殊に色刷版を可成多く入れることに努めて居る。前々號には人文に關する色刷、本號には色刷地質圖を挿入した。京都でかゝる圖版類を印刻することは少なからぬ努力を要することで、期待するが如き鮮かなものを滿覽に供へることの出來ないのを遺憾とすると同時に讀者が此の編輯同人の微衷を受け入れられんことを希望する。七月號卽ち第四卷第一號には水路部の好意で大阪の日本海海深圖を挿入する。